

# IoT時代のワンポイント講座

## 地図・地球データ

第12回 昔から使われる業界標準の地図データ形式  
「シェープファイル」

平野 匡伸

よく使われる地図データ・フォーマットに「シェープファイル注1」や「GeoJSON」があります。今回は「シェープファイル」にスポットを当てます。

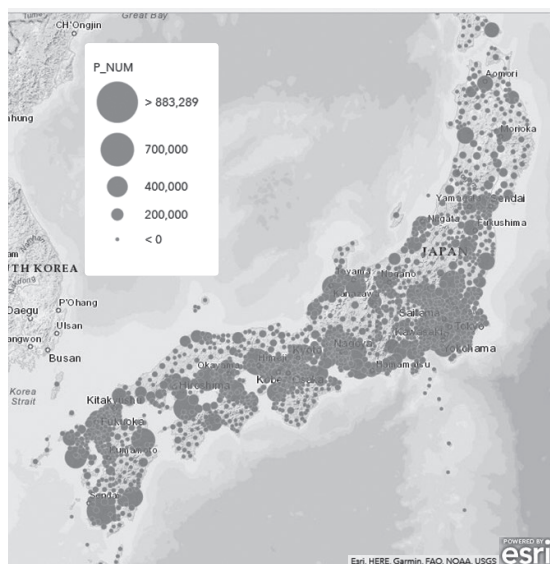
シェープファイルは開発されてから30年近くたつ比較的古いフォーマットです。それに関わらず、地図データ・フォーマットの業界標準であり、さまざまな用途があります。

例えば、自治体による統計情報、観光案内、公共事業の進捗の提示に用いられます。企業では、拠点の案内や地域ごとの売り上げ、納品数などの提示に用いられます。

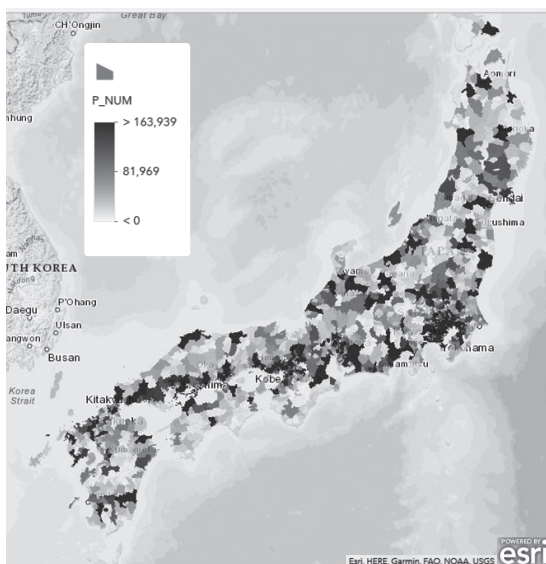
注1：アルファベットでは「Shapefile」、カタカナでは「シェープファイル」が正式な表記です。



(a) 地区町村の境界線だけでなく…



(b) 人口の数値を丸の大小で表現…「①表示する属性を選択」でプルダウン・メニューから「P\_NUM」(市区町村ごとの人口)を選択



(c) 市区町村ごとの人口を色の濃淡で表現…「②描画スタイルの選択」で「数と量(色)」を選択

図1 地図データの業界標準であるシェープファイルを試す